

那覇港だより

な は みなと

平成 30 年（2018 年）12 月 第 18 号

目 次

1. 田原常勤副管理者就任あいさつ 1
2. 那覇港総合物流センターの事業者決定について 2
3. 田原常勤副管理者、台湾港務株式会社（TIPC）、郭社長へ就任挨拶及び意見交換会を実施 3
4. 那覇クルーズターミナル（泊ふ頭地区 8 号岸壁）における受入対象クルーズ船の拡大化について 4
5. 那覇港管理組合で整備した施設の紹介 5
 - ・ 浦添線無電柱化
 - ・ 泊ふ頭岸壁改良
 - ・ 泊ふ頭陸電
6. 那覇港管理組合議会行政視察について 6
7. 平成 29 年度決算の概要 8
8. 平成 28 年度決算の概要 9

那覇港管理組合常勤副管理者への就任にあたって

那 覇 港 管 理 組 合
常勤副管理者 田原 武文



このたび、平成 30 年 5 月 30 日付けで、那覇港管理組合常勤副管理者に就任しました田原武文と申します。

私は、昭和 58 年 5 月に沖縄県庁土木建築部に採用され、道路・港湾等の社会基盤の整備に従事してきました。また、この間には、アメリカへ留学し、ジョージア工科大学大学院の修士課程を修了したのち、沖縄県庁へ復帰しました。今後は、これまでの港湾行政等の経験を活かし那覇港の整備・管理・運営に尽力していきたいと考えております。

さて、国際流通港湾として発展を続ける那覇港は、県内重要港湾の取扱貨物量において、多くの割合を占めており、外貿・内貿コンテナの総取扱量は、全国でも上位に位置付けられています。

一方、近年、那覇港は国内および東アジアにおける有数のクルーズ船寄港地となっており、今後も多くの寄港回数、乗客数が見込まれています。それにより、沖縄県の目標である入域観光客数 1,200 万人の達成に大きく寄与するものと期待されています。

このように、那覇港は県民生活や経済活動に大きく関わっており、経済成長著しいアジアの活力を取り込みながら、さらに発展させていきたいと思っております。

常勤副管理者の任務は大変な重責と認識しており、これまでの経験を活かすとともに、関係各位のご指導とご協力を得ながら那覇港の重要課題の解決及び発展のために全力を尽くす所存でありますので、どうぞよろしくお願い致します。

那覇港総合物流センター 事業者決定 & 2019年5月開業予定！

(企画建設部企画室)

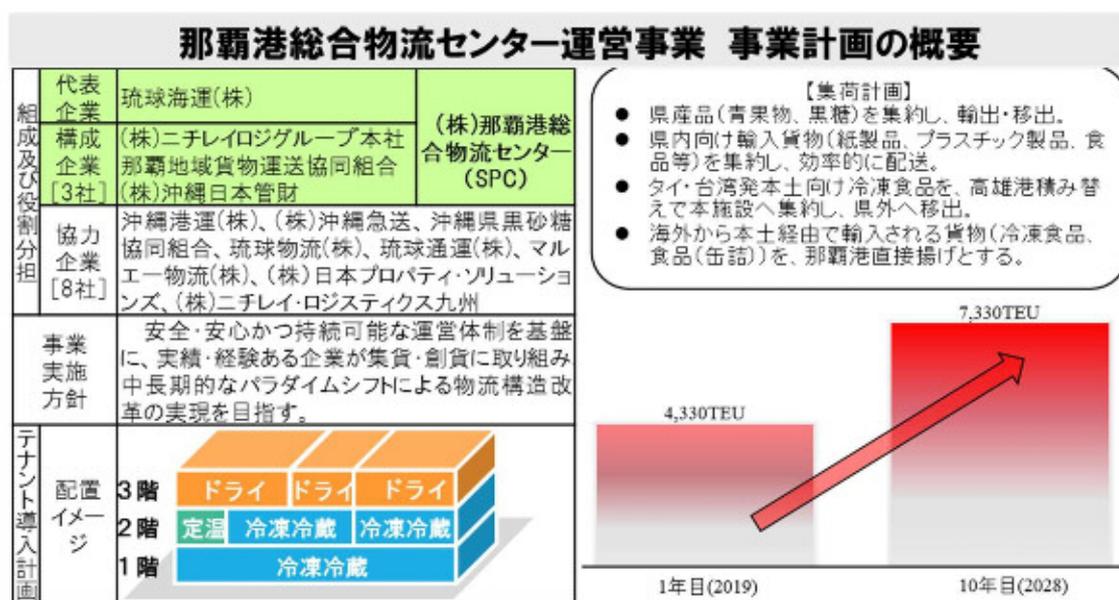
那覇港総合物流センターは、那覇港において、集貨・創貨を促進することにより取扱貨物の増加を目指し、物流の高度化を図るとともに、流通加工等の新たな価値を生み出す付加価値型産業の集積を図る総合物流施設として整備するものです。

2018年3月、那覇港管理組合と(株)那覇港総合物流センター(以下SPC、代表企業：琉球海運(株))は当該施設の運営事業契約を締結しており、今後30年の維持管理・運営をSPCが担うこととなります。本体工事と設備工事については、同年12月中での完成を予定しており、テナント設備工事の後、2019年5月開業を予定しております。

SPCの集貨計画では、県産品(青果物、黒糖)の輸移出貨物や県内向けの輸入貨物(紙製品、プラスチック製品、食品等)等を取り扱うこととしており、初年度4,330TEU、10年後には7,330TEUの取扱貨物量を見込んでおります。



【平成30年10月 那覇港総合物流センター工事進捗状況】



田原常勤副管理者、台湾港務株式会社(TIPC) 郭社長へ就任挨拶及び意見交換会を実施し、
両港の連携強化を確認しました！！

(企画建設部企画室)

平成 30 年 9 月 28 日に TIPC 台北オフィスにおいて、田原常勤副管理者より郭添貴(郭・ティエン・クヰイ)社長へ就任挨拶及び那覇港の近況報告と併せて MOU(パートナーシップ港に関する合意書)締結後の物流・人流面での支援等に対する感謝の意を伝えました。郭社長からは、これまでの連携に対する感謝、9 月 25 日～27 日まで開催されていた高雄市・TIPC 主催の国際港湾フォーラム(グローバル・ハーバー・シティフォーラム 2018)への参加に対する感謝の言葉を頂きました。

意見交換では、両港の進捗状況報告及びこれからの取組みを紹介し、今後も長期的な提携関係の深化を確認しました。

(以下、田原常勤副管理者より)

物流面	<p>那覇港の物流に関する取組みを紹介し、那覇港からの販路拡大、輸出貨物増大のため、引き続き支援を要望。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ MOU 締結前後でコンテナ貨物が 1.7 倍、高雄港に限定すると 2.1 倍に増。 ・ 港湾施設整備：那覇港総合物流センター(2019 年 5 月供用開始)については取扱品目、台湾向け輸出の可能性を紹介。 ・ 来月 12 日に沖縄県と那覇港管理組合の共催で開催する ‘台湾・沖縄国際海上物流活性化セミナー in 沖縄’ の参加への御礼。
クルーズ面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年那覇港へ寄港するクルーズ船は、280 回程度と去年より増。 ・ MOU 締結後、台湾から那覇港への寄港回数が 3.5 倍、乗客数は 4.6 倍に拡大。 ・ 官民連携による第 2 クルーズバース整備に向けて説明。 ・ 那覇クルーズターミナルの使用料について説明。

また前日には、老朽化した上屋をリノベーション・補強し、文化、ショッピング、飲食の交流施設に改装し賑わっていた’ 棧貳庫 KW2’ (今年 3 月オープン)を視察しました。意見交換後、田原常勤副管理者と郭添貴社長は、今後も更なる MOU 連携強化を目指すとして固く握手を交わしました。



左：田原常勤副管理者 右：郭添貴社長



老朽化した上屋をリノベーションした棧貳庫 KW2 の内観

那覇クルーズターミナル（泊ふ頭地区 8 号岸壁）における 受入対象クルーズ船の拡大化について

（総務部業務課）

那覇港管理組合では、クルーズ船観光客の利便性向上やクルーズ船社からの要望に早期に対応するため、平成 29 年度に、那覇クルーズターミナル（泊ふ頭地区 8 号岸壁）において、既存係留施設の有効活用を前提に、従来の最大船型である総トン数 13 万 GT 級・全長 311m を超えるクルーズ船の入出港及び係留の安全性等の検討を行うための航行安全対策調査専門委員会を設置し、平成 30 年 3 月までに総トン数 16 万 GT 級・全長 335m 程度を最大とする 3 船型の航行安全対策を取りまとめました。

その後、泊ふ頭地区を利用する離島定期航路事業者やクルーズ船の関係事業者と、船舶相互の安全航行や定時運航の確保等に関する利用調整を行いながら、実船の入出港トライアルによる検証を重ねて参りましたが、必要な調整が調ったことから、平成 30 年 8 月 15 日以降に那覇クルーズターミナル（泊ふ頭地区 8 号岸壁）に入出港するクルーズ船から拡大化の本格適用を開始しました。

那覇市の市街地に最も近接する那覇クルーズターミナルの益々の利活用促進が図られることで、クルーズ船観光客の利便性向上や満足度向上等に貢献するものと考えております。

那覇クルーズターミナル（泊ふ頭地区 8 号岸壁）における受入対象クルーズ船について

種別	全長	対象船名（例示）
従来の最大船型	311m	ボイジャー・オブ・ザ・シーズ（13 万 GT 級・311m）
新たに受入可能となった船型	335m 程度	マジェスティック・プリンセス（14 万 GT 級・330m） ワールド・ドリーム（15 万 GT 級・335m） ノルウェー جان・ジョイ（16 万 GT 級・333m）

※新たに受け入れ可能となった船型の対象船名は、あくまでも例示であり、同種類別のクルーズ船についても取り扱う場合があります。

（参考）実船の入出港トライアルによる検証の様子（係留状況）

平成 30 年 4 月 29 日（日）

マジェスティック・プリンセス（14 万 GT 級・330m）



平成 30 年 5 月 22 日（火）

ワールド・ドリーム（15 万 GT 級・335m）



那覇港管理組合で整備した施設の紹介

(企画建設部建設課)

臨港道路浦添線無電柱化

平成 29 年 3 月 18 日に開通した臨港道路浦添線は、自然豊かな海岸を見渡せる一方、海に近い台風による電柱倒壊の災害が予想されます。

景観の向上と災害に強い安全安心なみなとまちづくりの両方を実現するため、電線類の地中化を行いました。



泊ふ頭 6 号岸壁ドルフィン

平成 28 年 11 月 1 日に就航した「フェリーざまみ 3」を安全に係留するため、泊ふ頭 6 号岸壁に係船杭（ドルフィン）を整備しました。

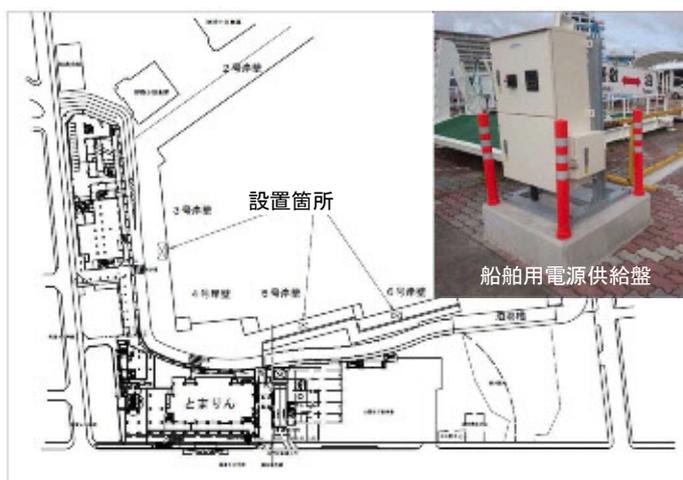
ドルフィンの設置により、既設岸壁の延長 65.0m より長い 71.0m もの船長を持つフェリーに係留できるようになりました。

泊ふ頭陸上電力供給施設

停泊中の船舶から排出される温室効果ガスの排出削減や騒音の抑制を図るため、船舶が使用する電気を陸上から供給する施設を整備、平成 30 年 1 月から利用されています。

電源供給対象船舶

- ・ フェリーとかしき
- ・ フェリーざまみ
- ・ 粟国フェリー



那覇港管理組合議会海外視察報告

(議会事務局)

那覇港管理組合議会（崎山嗣幸議長）では、平成30年5月21日～5月26日の日程で、アメリカ合衆国フロリダ州マイアミ港湾局をはじめ、那覇港へのクルーズ船の寄港実績があるクルーズ船社（3社）のマイアミ本社を訪問し、意見交換等を行うとともに、クルーズターミナル等の港湾施設を視察いたしました。

(1) 5月22日 ロイヤル・カリビアン・クルーズ・リミテッド（RCCL）本社、マイアミ港湾局

RCCLは、ブランド船社6社で構成された世界第2位の規模を持つ船社グループで、クルーズ船を47隻所有しています。

当初はカリブ海での就航がメインとなっていましたが、近年は中国をはじめとしたアジアにも積極的に事業を展開しており、那覇港にも平成30年中に27隻の寄港が見込まれています。

意見交換の中で、RCCLからは「寄港予約事務の改善」と「観光部局との連携強化」を図ってほしい旨の要望がありました。

また、那覇港管理組合（NPA）が進めている第2クルーズバースの実現については、「双方にとってメリットがあるので期待している。実現に向けて協力していきたい」旨の意見がありました。

意見交換終了後は、RCCLが設計、整備、運営する新ターミナルビルの建設現場の視察と、マイアミ港湾局からのマイアミ港の概要についての説明、RCCLが優先使用するエバーグレーズ港ターミナル18を視察いたしました。



(2) 5月23日 カーニバルコーポレーション&PLC本社（CARNIVAL）

CARNIVALは、世界最大のメガシップクルーズ船社で、世界シェアは約44パーセントとなっています。

グループのブランド船社9社で104隻を所有し、幅広い客層に応えるクルーズ船をラインナップしており、さらに2022年までに18隻のクルーズ船が新たに建造されることでした。

海外700港以上、139か国・エリアを就航し、日本には766回寄港、45港を利用しており、那覇港にも平成30年中に130隻の寄港が見込まれています。

意見交換に入る前に、5月にオープンしたばかりのフリー・オペレーション・センターや社内食堂、トレーニングジムなど本社内を案内していただきました。

意見交換の際には、まずCARNIVALから、「沖縄は、その地理的特徴、美しい

島々、独自の歴史と文化的背景など多くの可能性を秘めている。アジアへの展開を考える上で、「ポテンシャルは極めて高い」と評価する旨の意見があり、引き続きCARNIVALの事業実績についての説明がありました。

議員からは、那覇港を拠点港化した場合に、ターゲットとなる客層についてどう考えているのかとの質問があり、CARNIVALからは、客層は日本国内及び海外からの両方を想定している。那覇には国際空港があり、拠点港としての条件は整っているとの意見がありました。

意見交換終了後は、CARNIVALが運営しているターミナルを視察いたしました。本ターミナルは、マイアミ港湾管理者から年間最少使用回数を保証して、専用使用の契約(10年間)を交わしているとのことでした。

フリー・オペレーション・センターの視察



(3) 5月24日 ノルウェー・クルーズ・ホールディングス本社 (NCLH)

NCLHは、3つのブランドを持つ世界第3位のクルーズ船社で、那覇港にも2017年8月に「ノルウェー・ジョイ」、2018年4月に「ノルウェー・ジョエル」が初寄港しています。

現在8隻のクルーズ船を建造中であり、アジア地域のマーケット拡大のため、那覇港ともさらに関係を発展させていきたいとのことでした。

意見交換の中で、議員から、セレブ層をもっと呼びたいと考えているが、プレミアム船の寄港は今後増やす考えはあるのかとの質問に対し、NCLHからは現在も、プレミアム路線のオーシャン・クルーズが那覇に寄港しており、将来、他の船も寄港させたいとのことでした。



また、別の議員からは、今後の戦略として、どの程度の経営資源をアジアマーケットに投入していく計画があるのかとの質問があり、NCLHからは、具体的な数値指標はないが、アジアは非常に有望な市場だと考えているので、横浜にオフィスを開設した。これは当社だけではなく他の船社も同じ見方をしているのではないかと意見がありました。

平成29年度決算の概要

(出納室)

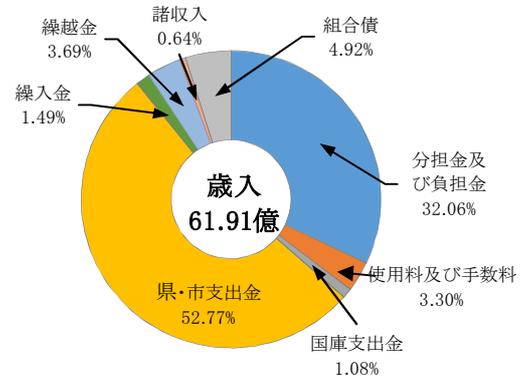
一般会計

一般会計の決算額は、歳入総額61億9,149万8千円、歳出総額59億3,632万8千円となっており、前年度と比較すると歳入については7億8,030万4千円(14.42%)の増、歳出については7億5,375万3千円(14.54%)の増となっています。

歳入

(金額:千円)

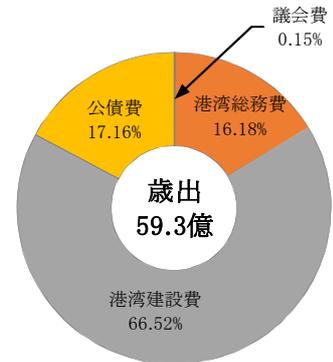
歳入区分	H29年度		H28年度
	予算額	決算額	決算額
分担金及び負担金	1,984,982	1,984,982	2,008,848
使用料及び手数料	168,293	204,523	177,340
国庫支出金	118,910	67,072	251,414
県・市支出金	5,013,725	3,267,247	2,496,091
財産収入	2,170	2,162	37
繰入金	92,389	92,390	66,974
繰越金	228,619	228,619	186,413
諸収入	40,171	39,903	41,077
組合債	364,600	304,600	183,000
歳入計	8,013,859	6,191,498	5,411,194



歳出

(金額:千円)

歳出区分	H29年度		H28年度
	予算額	決算額	決算額
議会費	9,403	8,686	8,642
港湾総務費	1,115,972	960,400	838,311
港湾建設費	5,856,689	3,948,580	3,281,911
公債費	1,022,870	1,018,662	1,053,711
予備費	8,925	0	0
歳出計	8,013,859	5,936,328	5,182,575



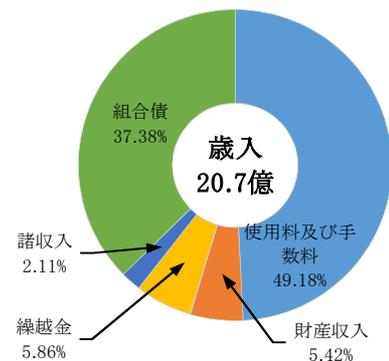
特別会計

特別会計の決算額は、歳入総額20億7,728万3千円、歳出総額18億9,610万2千円となっており、前年度と比較すると、歳入については3億9,412万5千円(23.41%)の増、歳出については3億3,465万円(21.43%)の増となっています。

歳入

(金額:千円)

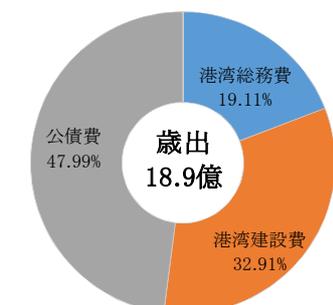
歳入区分	H29年度		H28年度
	予算額	決算額	決算額
使用料及び手数料	991,744	1,021,650	953,821
財産収入	110,249	112,493	105,740
繰入金	0	1,217	0
繰越金	121,705	121,706	199,871
諸収入	23,505	43,817	29,126
組合債	928,746	776,400	394,600
歳入計	2,175,949	2,077,283	1,683,158



歳出

(金額:千円)

歳出区分	H29年度		H28年度
	予算額	決算額	決算額
港湾総務費	437,891	362,253	292,908
港湾建設費	827,661	623,973	363,760
公債費	910,199	909,876	904,784
予備費	198	0	0
歳出計	2,175,949	1,896,102	1,561,452



平成28年度決算の概要

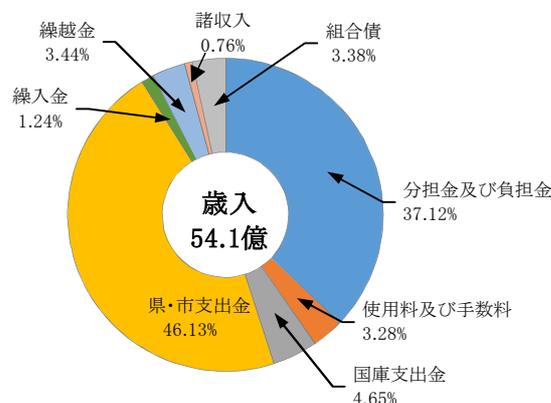
(出納室)

一般会計

一般会計の決算額は、歳入総額54億1,119万4千円、歳出総額51億8,257万5千円となっており、前年度と比較すると歳入については17億4,482万1千円(47.59%)の増、歳出については17億261万5千円(48.92%)の増となっています。

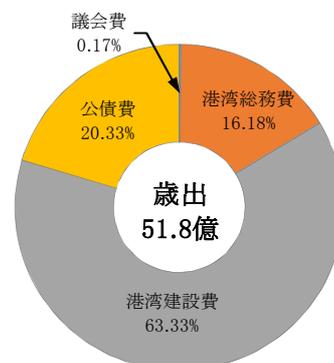
歳入

歳入区分	H28年度		H27年度
	予算額	決算額	決算額
分担金及び負担金	2,008,847	2,008,848	1,936,439
使用料及び手数料	151,353	177,340	156,315
国庫支出金	253,324	251,414	76,052
県・市支出金	3,823,191	2,496,091	1,023,497
財産収入	49	37	97
繰入金	66,974	66,974	72,601
繰越金	186,413	186,413	176,876
諸収入	31,324	41,077	44,796
組合債	323,000	183,000	179,700
歳入計	6,844,475	5,411,194	3,666,373



歳出

歳出区分	H28年度		H27年度
	予算額	決算額	決算額
議会費	10,874	8,642	8,146
港湾総務費	928,384	838,311	761,175
港湾建設費	4,825,149	3,281,911	1,626,375
公債費	1,060,048	1,053,711	1,084,264
予備費	20,020	0	0
歳出計	6,844,475	5,182,575	3,479,960

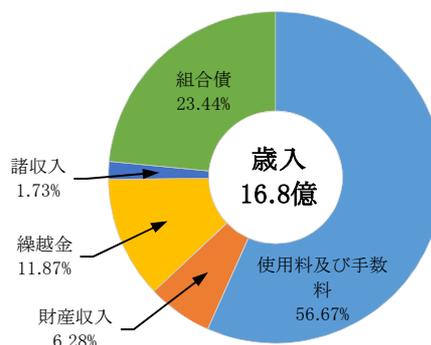


特別会計

特別会計の決算額は、歳入総額16億8,315万8千円、歳出総額15億6,145万2千円となっており、前年度と比較すると、歳入については4億8,347万円(22.31%)の減、歳出については4億530万4千円(20.6%)の減となっています。

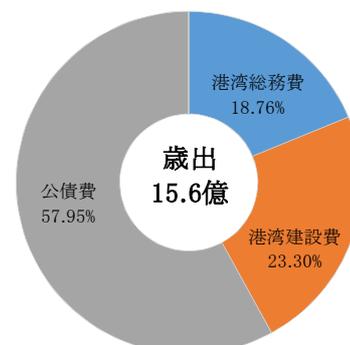
歳入

歳入区分	H28年度		H27年度
	予算額	決算額	決算額
使用料及び手数料	1,000,721	953,821	968,202
財産収入	106,919	105,740	154,689
繰入金	0	0	0
繰越金	199,871	199,871	213,760
諸収入	23,171	29,126	26,277
組合債	815,400	394,600	803,700
歳入計	2,146,082	1,683,158	2,166,628



歳出

歳出区分	H28年度		H27年度
	予算額	決算額	決算額
港湾総務費	367,168	292,908	398,608
港湾建設費	849,334	363,760	681,335
公債費	919,494	904,784	886,813
予備費	10,086	0	0
歳出計	2,146,082	1,561,452	1,966,756



那覇港だよりに関するお問い合わせやご意見、情報の送り先

那覇港管理組合総務部総務課

〒900-0035 那覇市通堂町2番1号（那覇ふ頭船客待合所3階）

TEL:098-868-2578 FAX:098-868-2629

e-mail: kumiai@nahaport.jp